

令和3年秋の外国人叙勲 台湾人受章者（3名）に対する勲章伝達式の 実施について

令和3年11月3日、日本政府は令和3年秋の外国人叙勲受章者を発表しました。その中で、日台間の友好関係の増進に顕著な功績があったとして、台湾から3名の方が下記のとおり受章されました。

泉裕泰・当協会台北事務所代表より、2021年12月22日に何美玥氏、2022年3月7日に林善超氏、同年3月9日に王金平氏に対し、それぞれ勲記及び勲章が伝達されました。日台関係の発展のために長年にわたり献身的なご尽力をされてこられた受章者のご貢献に衷心の敬意と謝意を表します。

王金平氏

勲 等：旭日大綬章

主要経歴：元東日本震災台湾慰問訪日団団長、台日交流聯誼会名誉会長

受章理由：日本・台湾間の友好親善及び相互理解の促進に寄与

主な功績：

- ・30年来にわたり一貫して日台間の議員交流を促進。
- ・2011年には東日本震災台湾慰問訪日団団長として訪日。

何美玥氏

勲 等：旭日重光章

主要経歴：台湾日本関係協会科技交流委員会主任委員、台日産業連携推進オフィス（TJPO）榮譽顧問

受章理由：経済及び科学技術分野における日本・台湾間の交流促進に寄与

主な功績：

- ・科学技術分野における日台の専門家や産業界の活発な交流を実現。
- ・日本企業の台湾進出支援や日本の地方自治体との連携推進にも主導的役割を果たす。



泉代表より王金平氏に勲記伝達



泉代表より何美玥氏に勲記伝達

林善超氏

勲 等：旭日双光章

主要経歴：日本人遺骨管理者、台中寶覺禪寺主任委員

受章理由：台湾における日本人遺骨の管理に寄与
主な功績：

- ・台湾における日本人遺骨の管理に寄与。
- ・戦前・戦中に台湾でなくなった日本人の遺骨の収集・受け入れ、日本人墓地の維持管理、日本人物故者慰霊などに尽力。



泉代表より林善超氏に勲記伝達

受章のことば 王金平氏

この度、金平は日本政府が外国人に授与する最高の栄誉である「旭日大綬章」を賜りました。非常に光栄に存じます。まず、金平の長年にわたる日台友好への努力を認めてくださった日本政府に感謝するとともに、私をこの栄誉に推薦して下さった泉裕泰大使にお礼を申し上げます。

桜が満開のこの季節、「さまざまなこと思い出す桜かな」という松尾芭蕉の俳句が思い浮かびます。私の場合は、この数十年間の日本の友人たちとの思い出が蘇ります。

日本と台湾は、地理的・歴史的な要因から密接な関係にあります。国際環境の変化により、1972年に正式な国交関係は終了しましたが、日台間の人的交流は影響を受けず、経済の発展とともに頻繁かつ密接に行われるようになりました。

1992年、金平は立法院の与党党団書記長でし

た。当時、李登輝総統の指示により、今日の「台日交流聯誼会」を立ち上げ、日本の超党派国会議員による「日華議員懇談会」との交流・対話のプラットフォームを構築して、積極的に様々な協力を行いました。当初の経済・政治面だけでなく、社会の発展や人々の生活に関わる文化・安全保障の分野等にも拡大し、多面的な交流を通じて、より緊密な友好関係を築くことができるようになっていきます。

このような友情は「まさかの時の友こそ真の友」という言葉のとおり、災難の時には一層顕著に現れます。1999年9月21日未明、台湾中部でマグニチュード7.3の地震が発生しました。日本政府は直ちに日本として過去最多の人数の援助隊を台湾に派遣し、これは海外から台湾に駆けつけた援助隊の中でも最大の人数の救援隊となりました。当日の午後から夜にかけて、続々と台湾に到着し、倒壊した建物において救出活動を行い、その後、復興支援のため、仮設住宅や救援金等を寄付してくれました。日本政府や民間社会の支援は、今日でも台湾の人々に大変感謝されています。

それから12年後の2011年3月11日午後、日本の東北地方太平洋沖で強い地震が発生し、津波による大きな被害が発生しました。台湾は救援隊を派遣するとともに、同日から大規模な義援金キャンペーンを開始したほか、4月20日にはこの金平が立法院長として訪日し、台湾各界からのお見舞いを伝えるとともに、義援金の寄付を行いました。その訪日の際、北海道の高橋はるみ知事からは、「台湾が北海道旅行に対するグレーアラートを解除し、北海道の観光産業の活性化を助けてほしい」と言われました。そこで私はその場で約束し、5月に与野党の立法委員、観光業界の方々、200人以上の観光客を集め、エバー航空のチャーター便で北海道に赴き、「観光復興訪問」を行ったのです。2012年7月と2013年7月にも、与野党の立法委員を率いて東北の被災地を2回訪問し、日本の復興を支援するために力を尽くしました。

台湾と日本との深い絆は、このような困難に直面した時の相互支援の中で、揺るぎない土台を築いてきたのです。金平個人は、日本の官民各界と頻繁に交流してきた結果、多くの兄弟のような日

本の友人が出来ました。頻繁に会えなくても、機会さえあれば、どんなに仕事が忙しくても、どんなにスケジュールがタイトでも、会う時間を確保してきました。例えば、2008年、池田維大使の招きで、「日米台3カ国戦略対話フォーラム」に参加した際、安倍晋三元首相がわざわざ私に会いに来て、30分以上も2人だけで話したことがあります。2017年に私が再度代表団を率いて被災地を訪問した際、当時の財務大臣であった麻生太郎先生は、元々ドイツにいたのですが、私に会うために日程を切り上げて早めに帰国してくれました。また、その際、旧友の平沼赳夫先生の体調が悪いと聞き、私は東京から岡山へお見舞いに行く予定でしたが、平沼先生の方が私に会うために東京に来ると言うて下さいました。私は今でも、この良き友人たちの純粋な友情に感動しています。

こうした過去の出来事を持ち出すのは、金平個人がいかに重要であるか、日台交流にいかに貢献してきたかを強調したいのではなく、現在の日台間の緊密な相互信頼と友好関係は、塵も積もれば山となるという言葉のとおり、一人ひとりの真摯な交流によって、少しずつ築かれるのだということを指摘したいからです。夏目漱石が「虞美人草」の中で、「天地の前に自分が厳存しているという観念は、真面目になって始めて得られる自覚だ」と書いていますが、真面目とは、金平が公職に就いて以来の自分に対する要求であり、また、日本の友人たちとの交流においても、長年にわたってその姿勢を貫いてきました。

台湾南部の田舎に生まれた金平は、想像もつかなかった状況の中で人生の転機を迎え、政治の世界に入り、44年間立法委員を務めてきました。1999年から2016年までは立法院長でもあり、立法委員としても立法院長としても、台湾の国会において最長の任期を務めることになりました。金平は長い政治の旅を通して、初心を忘れることなく、政治の道がいかに険しくとも、真面目に接することによってのみ、尊敬と真心を得ることができると信じてきました。

この度、日本政府から「旭日大綬章」が授与されたことは、金平が日本の友人たちに真面目に接し、長年にわたって蓄積してきた善意の結果であ

ると自負しております。この場をお借りして、長年にわたって真摯な支援と、日台関係において具体的な役割を果たす機会を与えてくださった日本各界の友人の方々に感謝いたします。もちろん、台湾と日本の友好と交流を長年にわたって支えてくれた台湾の友人たち、そして、私が何の心配もなく仕事に打ち込める最大の原動力となり、ずっと支え続けてくれた家族にも感謝します。皆様、ありがとうございました。

日本政府と泉裕泰大使をはじめ、金平を祝福してくださった台湾と日本の友人たち、そして今日、金平とこの榮譽を分かち合うためにお越しいただいたすべての来賓と友人たちに、改めてお礼を申し上げたいと存じます。新型コロナウイルスの感染拡大が早く終息し、桜の木の下でお酒が飲めるよう期待しております。

最後に、日台関係の更なる発展と、皆様の御健勝・御活躍を祈念して私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(原文は中国語。台北事務所にて日本語訳。)

受章のことは 何美珮氏

この度の日本政府からの旭日重光章の受章は、私の人生で最大の名誉であり、ご列席の皆様がこの伝達式典において、共にこの喜びを分かち合っていただけで、更に大きな輝きが添えられました。日本政府が2,000キロ以上も離れたところから、日本と台湾産業の連携に尽力する者に目を向け、この章を授与して下さったことは、驚きとともに大きな励みとなり、心から感謝しております。

また、このような盛大な式典を催して下さった、日本台湾交流協会の泉代表に心より感謝申し上げます。新型コロナの感染拡大を受けた移動の制限により、私自身が日本へ赴き、直接旭日重光章を授与していただくことも、天皇陛下や首相とお会いすることもできないことは大変残念ですが、家族や友人と共に喜びを分かち合えることは、大変喜ばしいことです。この場をお借りして、日本台湾交流協会の方々による、細やかな手配と、日本が大変重要な時期に台湾へ420万本ものワクチンを送って下さったおかげで、私たちが新型コロナ

の流行を抑えることができたこと、そして、このような盛大な式典を迎えることができたことに、厚く御礼申し上げます。

私は、2016年から台湾日本関係協会（旧：亜東関係協会）の科学技術交流委員会主任委員として、「台湾・日本科学技術フォーラム」及び訪日団などを通じ、産官学トップによる日台交流を促進しました。また日台若手官僚交流イベントに参加し、私の経験を共有することで、行政機関間の活発な日台交流を後押ししました。同様に2016年から、台日産業連携推進オフィス（TJPO）の名誉顧問として、台湾經濟部が組成する訪日団の顧問を務め、多数の日本企業訪問を行い、日台OBネットワークセミナーを開催するなど、日台企業間の橋渡しにも力を尽くしました。

他方私がこのような章を受章できたのは、ひとえに、ご列席の関係者の皆様並びに、台日産業連携推進オフィス（TJPO）、台湾日本関係協会科技交流委員会、日本台湾交流協会の皆様のお陰です。台日産業の連携の推進は、皆様のご尽力無くしては成り立たず、私はただ、皆様を代表して表彰されたままで、この名誉は私たちが皆で共同で掴んだものです。私たちの前向きな活動や台日間の産業の連携への貢献が認められたことを大変誇らしく思っております。

そして、私の家族、夫や子供にも大変感謝しております。私が2008年に政府から退職してから10年以上、日本と台湾の産業連携に有志として携わってきましたが、その間しばしば会議に参加したり、日本へ出張に行ったりと家族団らんの時間を犠牲にしなければなりません。家族が温かくサポートしてくれたことに、心から感謝しています。

私は、台湾日本関係協会科学技術交流委員会主任委員、台日産業連携推進オフィス（TJPO）名誉顧問として、台日双方の経済及びテクノロジー分野に関する交流や連携を強化する責任があると考えてきました。

日本と私たち台湾の関係は、数十年間進化し続けてきました。日本は、台湾にとって重要な貿易相手国であるだけでなく、台湾が新技術を学ばせていただく対象であり、また、半導体などの重要

な製造業のサプライチェーンにおいて、相互で補完し合える最高のパートナーです。また、日本は台湾よりも一歩早く、少子化や高齢化等の社会問題に直面するため、バイオテクノロジーを取り入れた医療やヘルスケア等の分野で、日本が歩んできた道は、台湾にとって非常に価値のあるものなのです。

特に、世界情勢が目まぐるしく変化する中で、グローバルサプライチェーンが大幅な再編を迫られている中、日本と台湾の関係を強化し、互いに無いものを補完し合い、徐々に形成されつつあるグローバルサプライチェーンの中で、共に、より積極的な役割を果たし、世界中に向けて影響力を発揮していくことが求められています。

旭日重光章は、日本政府が外国人に授与する勲章の中で2番目に高い栄誉のあるものです。私の前には、彭榮次・台湾日本関係協会元会長、許勝雄・三三會名誉理事長、そして黄茂雄・東元グループ会長が同じく過去受章されています。先輩方の後に続き、これからも更に責任感を持ち、皆様の力をお借りして、各協会、企業の皆様と共に台日連携を推し進めていきたいと思っております。日本台湾交流協会の皆様も引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。

（原文は中国語。TJPOにて日本語訳。）

受章のことば 林善超氏

この度、日本国政府及び泉代表のご厚情を賜り、このような崇高な栄誉を頂戴し、誠にありがとうございます。

60数年前の時代背景を思い出すと、当寺の仏教界で慈悲について語る方はたくさんいましたが、皆、破壊されたお墓については見て見ぬふりをしていました。当時の、今は亡き住職、林錦東老師は、台湾各地で計一万四千柱以上の日本人遺骨を受け入れ、台湾で亡くなった日本人の遺骨安置所を設立し、定期的に慰霊祭を開催することを決意されました。この60年間、日本からお越しになった宗教団体も多く、ほかにもビジネスマン、団体旅行者、国会議員等の皆さんが積極的に慰霊祭に参加されました。

私はこの神聖な行事を引き継いで以来、慎重か

つ控えめな態度でこの伝統を守り続けてきました。また、仏教徒の果たすべき責任を常に見つめ直しています。この度、このような栄誉を賜うことができ、この勲章を亡き住職、林錦東老師と心観上人長老に献上したいと思います。これは二人の栄誉であります。

昨年、日本国政府から四百万回分のワクチンを台湾に提供していただき、我々台湾人は非常に温かい人情を感じました。この時期、泉代表も台湾の農産物に強い関心を持っていただき、台湾産パ

イナップルは日本で過去最高の売上高を記録することができました。他の分野でも、泉代表は同じく全力を尽くし、日台関係のさらなる向上を促進するための努力をされています。私たちはこの恩恵を受けることができ、深く感謝しております。

今後、共にコロナ禍を乗り越え、より一層の相互交流と共通の良き未来をつくっていくことを心より願っております。

(原文は中国語。台北事務所にて日本語訳。)